岡崎市制100周年記念事業
岡崎まちものがたり

萬燈山長圓寺

宗派：曹洞宗、本山は永平寺・總持寺
本尊：観音菩薩（聖観音）
創建：1630（寛永7）年
所在地：西尾市貝吹町入101

長圓寺（ちょうえんじ）は初代の京都所司代として活躍した板倉勝重とその一族である大名・旗本板倉家の菩提寺である。1630（寛永7）年に創建された。お盆の「かぎ万灯」や桜、紅葉の名所として知られる万灯山の麓にたたずむ閑静な禅刹である。境内地全体は史跡に指定され、板倉勝重の霊廟である肖影堂（県指定文化財）をはじめ、板倉家代々の当主の墓所や本阿弥光悦筆手水鉢、石川丈山筆扁額などの文化財を見ることができる。

家康によって1600（慶長5）年に京都所司代に任ぜられた勝重は、いまだ豊臣方や朝廷、寺院などの勢力の強い京を堅実に治め、幕府による支配体制を確立した。勝重は19年、長子の重宗は34年にわたって所司代を務め、ともに名所司代と讃えられた。また庶民からは名奉行としても親しまれ、本阿弥光悦、安楽庵策伝、石川丈山、松花堂昭乗、松永貞徳ら、多くの京の文化人、知識人らと身分や立場を越えた親交を結んだ。

長圓寺境内には、1630（寛永7）年に建てられた山門、板倉勝重の霊廟である肖影堂や板倉6家の代々の当主と夫人の墓塔が林立する墓所、1816（文化13）年に永平寺の大工棟梁によって再建された本堂がある。また、本阿弥光悦筆の銘のある手水鉢、石川丈山筆の扁額「肖影堂」など、京の文化人たちの作品も見ることができる。ほかにも、東山北野遊楽図屏風、板倉勝重坐像、板倉勝重肖像、石川丈山漢詩集『覆醤集』、『正法眼蔵随聞記』など、多くの文化財を所蔵している。また、三河七福神の布袋尊（子安布袋尊）の霊場としても信仰を集めている。

開基の板倉勝重は、三河の出身で幼少にして仏門に帰依し11才で剃髪し、香誉宗哲と号し諸国を行脚し禅の修行を重ねていた。父・好重が善明提の戦いで討死した後、長兄・忠重は病気の為、弟・定重が家督を継いでいたが遠州の戦いで戦死したことから家系を継ぐ者がなくなった。徳川家康は板倉家の衰退を惜しみ、勝重に再三の下命があり、1573（天正5）年、33才で還俗し、渋川甚平と改め、42才で板倉家を名乗った。

20150806 長圓寺山門

長男・重宗は、1630（寛永7）年、中島村から隣村の万燈山麓（現在地）に長圓寺を移し、新たに禅林風伽藍を完備し、山号を萬燈山と改めた。また、肖影堂を建て、父・勝重の木像を安置した。曹洞中興の祖師・月舟和尚の入山に及び、雲納多く集まり「東海の法窟」といわれたそうである。三河三十三観音霊場の結願寺でもある。

[板倉好重（1520～1561）]

板倉氏は、足利宮内少輔泰氏の次男、義顕を祖とする。義顕ははじめ板倉二郎、のち渋川とあらため、満頼や義俊の代には九州探題職をつとめた。三河の板倉氏は、義鏡の子孫で三河に流れた板倉頼重が祖とされ、三河国額田郡小美村に住み、頼重・好重父子は深溝松平氏に仕えた。板倉好重（いたくら　よししげ）は板倉頼重の長男で八右衛門という。1561年（永禄4）年に、松平好景の子、伊忠は上野城救援を命じられた。そのため、伊忠の守っていた中島城が手薄になり、それを知った吉良義昭は中島城攻めを開始した。松平好景は深溝城から中島城救援に出陣。松平好景、板倉好重は吉良勢との合戦（善明提の戦い）で討死した。享年42歳、子供は忠重、勝重、定重の3人である。

板倉家の家系図：頼重―好重―勝重―重宗―重郷

[板倉勝重（1545～1624）]

板倉勝重（いたくら かつしげ）は、安土桃山時代から江戸時代前期の旗本、大名である。江戸町奉行、京都所司代などを歴任した。板倉家宗家初代である。史料では官位を冠した板倉伊賀守の名で多く残っている。優れた手腕と柔軟な判断で多くの事件、訴訟を裁定し、敗訴した者すら納得させるほどの理に適った裁きで名奉行と言えば誰もが勝重を連想した。勝重は好重の次男として三河国額田郡小美村（現在の愛知県岡崎市小美町）に生まれる。幼少時に出家して浄土真宗の永安寺の僧となった。ところが、1561（永禄4）年に父の好重が深溝松平家の松平好景に仕えて「善明提の戦い」で戦死し、さらに家督を継いだ弟の定重も1581（天正9）年に「高天神城の戦い」で戦死したため、徳川家康の命で家督を相続した。

その後は主に施政面に従事し、1586（天正14）年には家康が浜松より駿府へ移った際には駿府町奉行、1590年に家康が関東へ移封されると、武蔵国新座郡・豊島郡で1000石を給されて、関東代官、江戸町奉行となる。関ヶ原の戦い後の1601（慶長6）年、三河国3郡に6600石を与えられるとともに京都町奉行（後の京都所司代）に任命され、京都の治安維持と朝廷の掌握、さらに大坂城の豊臣家の監視に当たった。なお、勝重が徳川家光の乳母を公募し春日局が公募に参加したという説がある。

1603（慶長8）年、家康が征夷大将軍に就任して江戸幕府を開いた際に従五位下・伊賀守に叙任され、1609年には近江・山城に領地を加増され1万6600石余を知行、大名に列している。同年の猪熊事件では京都所司代として後陽成天皇と家康の意見調整を図って処分を決め、朝廷統制を強化した。1614（慶長19）年からの大坂の陣の発端となった方広寺鐘銘事件では本多正純らと共に強硬策を上奏した。大坂の陣後に江戸幕府が禁中並公家諸法度を施行すると、朝廷がその実施を怠りなく行うよう指導と監視に当たった。1620（元和6）年長男の重宗に京都所司代の職を譲った。1624（寛永元）年に死去、享年79歳であった。

板倉勝重

中島山長圓寺は勝重が1600年に永安寺を再興した寺である。長男の重宗は、1630（寛永7）年、勝重の七回忌に際し、万燈山麓（現在地：西尾市）に長圓寺を移し、新たに禅林風伽藍を完備し、山号を萬燈山と改めた。本堂裏には板倉家の廟所があり、「肖影堂」（県指定文化財）と呼ぶ。方三間の宝形造り、濡縁を巡らした丹塗りの堂である。堂の扁額の文字は、同じく家康に仕えた石川丈山（いしかわじょうざん、安城和泉出身の漢学者）の書である。「肖影堂」一帯には板倉氏代々の大きな格式の高い墓石が林立している。また、勝重の次男重昌（しげまさ）は、島原の乱に出陣して戦死していることから「島原殉難諸士之墓」という石碑も建っている。板倉氏は歴代、京都所司代や老中など幕府の要職を務め、文化財も板倉氏ゆかりのものが多い。

20150806 長圓寺本堂

20150806 長圓寺勝重廟

20150806 長圓寺板倉家墓

本項は以下の資料を引用している。

[岡崎の人物史]

著者：　岩月　栄治
編集：　岡崎の人物史編集委員会
発行日：1979（昭和 54）年 1 月 5 日
印刷所：研文印刷社
「板倉勝重」（P89）、「野本新十郎・渡邊弥蔵」（P99）、「早川龍介」（P150）、「鶴田勝藏」（P190）、「太田功平」（P192、土井町）、「石川成章」（P249）の記述がある。

[六ッ美村誌]

編者：　六ッ美村是調査会
発行：　六ッ美村是調査会
発行日：1926（大正 15）年 12 月 1 日
発行所：日新堂書店
印刷所：活版印刷所